

※ 神社のホームページについて

今年より、広島県神社庁 三次支部 のホームページが開設されましたのでお知らせします。

広島県神社庁 三次支部 <https://hiroshima-jinjacho-miyoshi.com>

- ・最新の催物のお知らせ
- ・三次（みよし）支部について
- ・支部内 神社の紹介
- ・神社って何？ 参拝のしかたは？



一度、開いてみてください。志賀神社は現在、紹介・催物等を11月末まで更新中です。

※ 神社の祝詞（のりと）について

神職が神さまに奉上する言葉を祝詞と呼びます。

その起源はとても古く、天照大御神（あまてらすおおかみ）が「お隠れになった天の岩屋の前で天児屋命（あめのこやねのみこと）が「布詔戸言（ふとのりとごと）」という祝詞を奉上したとされています。

祝詞は神饌（しんせん）と幣帛（へいはく）を供えて、御神徳に対する称辞（たたえごと）を奉し、御加護を頂く儀式。言霊（ことだま）信仰を受け一字一句、流麗で荘厳な言い回しで行います。言葉には霊力が宿っていて、口に出して述べることでその力が発揮されると考えられるのが言霊信仰です。

神を称え、尊敬する言葉（詞）を神に奉上し、穢れを祓って神の加護を得るための文書。志賀神社での小南宮司の祝詞は、季節ごとの祭りの祝詞と、例大祭の祝詞とがあります。季節ごとの祭りで、宮司と一緒の奉上する「大祓詞（おおはらえことば）」と言う祝詞があります。（別紙参照）参拝いただくと、宮司と参拝者全員で、奉上します。ぜひご参拝を！神前にて、『二拝（にはい） 二拍手（にはくしゅ） 一拝（いちはい）』のあと頭を下げて住所・氏名を名乗り、「祓（はら）え 給（たま）え 清め給え」を3回 唱えるが作法でお参りして戴ければ宜しいと思います。より丁寧にされたいならば、「神拝詞」を神社にお参りした時・神社拝詞（じんじゃはいし）、神棚の前で・神棚拝詞（かみだなはいし）という祝詞があります。 次回の機会があれば記載します。

・各地区総代が神社総代に就任時に、神殿に登壇して「〇〇〇当屋総代就任宣誓祝詞」を奉上します。

・秋季例大祭には、責任当屋総代が、神殿に登壇して「秋季例大祭総代祝詞」を奉上します。
（総代で、祝詞は保管されています。）

大祓詞

おおはらふことば

出典・祝詞全集第五卷「神社本庁・式年遷宮篇」(神社新報社)

高天原に神留坐す皇が親神漏岐神漏美命以ちて八百万神等を神集へに集賜
ひ神議りに議賜ひて我が皇御孫命は豊葦原水穗国を安国と平けく知食せと事
依奉りき。此く依奉りし国内に荒振る神等をば神問はしに問賜ひ神掃ひに掃
賜ひて語問ひし磐根樹根立草の片葉をも語止めて天の磐座放ち天の八重雲を伊頭
の千別きに千別きて天降し依奉りき。此く依奉りし四方の国中と大倭日高見国
を安国と定奉りて下つ磐根に宮柱太敷立て高天原に千木高知りて皇御孫命の瑞
の御殿仕奉りて天の御蔭日の御蔭と隠坐して安国と平けく知食さむ国中に成
出でむ天の益人等が過犯しけむ種種の罪事は天つ罪国つ罪許許太久の罪出でむ。
此く出でば天つ宮事以ちて天つ金木を本打切り末打断ちて千座の置座に置足はし
て天つ菅麻を本刈断末刈切りて八針に取辟きて天つ祝詞の太祝詞言を宣れ。此く
宣らば天つ神は天の磐門を押披きて天の八重雲を伊頭の千別きに千別きて聞食
さむ。国つ神は高山の末短山の末に上坐して高山の伊褒理短山の伊褒理を搔別
けて聞食さむ。此く聞食してば罪と云ふ罪は在らじと科戸の風の天の八重雲を
吹放つ事の如く朝の御霧夕の御霧を朝風夕風の吹払ふ事の如く、大津辺に居る
大船を舳解放ち艫解放ちて大海原に押放つ事の如く、彼方の繁木が本を焼鎌の敏
鎌以ちて打掃ふ事の如く、遣る罪は在らじと祓給ひ清給ふ事を高山の末短山の
末より佐久那太理に落多岐つ速川の瀬に坐す瀬織津比売と云ふ神大海原に持出で
なむ。此く持出往なば荒潮の潮の八百道の八潮道の潮の八百会に坐す速開都比売
と云ふ神持加加吞みてむ。此く加加吞みてば氣吹戸に坐す氣吹戸主と云ふ神根国
底国に氣吹放ちてむ。此く氣吹き放ちてば根国底国に坐す速佐須良比売と云ふ
神持佐須良ひ失ひてむ。此く佐須良ひ失ひてば罪と云ふ罪は在らじと祓給ひ清
給ふ事を天つ神国つ神八百万神等共に聞食せと白す。